

得点順

十四点

④閉めし戸をまた開けてみる良夜かな 小川名梅乃

役終への案山子のシャツのはだけをり 藤本友子

空二分してとんぼの別れけり 小川名梅乃

九点

①草の美のかすかに重き揺らぎかな 柏尾のり子

秋深し石窯焼のパン匂ふ 藤本友子

朝寒や温泉粥の湯気匂ひ 佐渡谷秀一

マネキンの光るまなこや冬近し 増田守

八点

②行く道を照らすに足らぬ三日月 安中忠夫

(以下省略)

①中仙道暮色になしむ吊し柿 稲葉幸

七点

②さわさわと秋の声聴く竹の寺 藤本友子

①この種を植うると葡萄食む子かな 柏尾のり子

捨案山子谷間の薄日仰ぎをり 佐渡谷秀一

六点

①芒挿す一升瓶の店に入る 荒木ツル子

①振り向けば悔いあまたなり罌雲 藤崎安紀子

乗りつぎし山頂駅の吾亦紅 荒木ツル子

廃駅や泡立草の海の中 柏尾のり子

卓袱台に家族六人秋刀魚食ぶ 辻幸子

五点

②野ざらしの廃車月光浴びてをり 古野明美

菊咲くや子規の眺めし小宇宙 辻幸子

四点

①縞シャツを纏ふ古希や穴まどい 岩野ヤエ子

①蝸鳴く老母の綴る日記かな 藤崎安紀子

①山道のくねり大きく秋夕焼 原田清子

①葺替への翁の手際ははやかに 原田清子

黄落や地下入口へ人の渦 増田守

戸一枚開けて満月仰ぎけり 小川名梅乃